

水産資源の資源評価研究

(水産資源調査・評価推進委託事業)

(予算区分 受託 研究期間 2019 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所 資源海洋科 鈴木聡志・青山 航・市川喬雅
浜名湖分場 鷺山裕史・上原陽平・飯沼紀雄・吉川昌之・霜村胤日人
伊豆分場 岡田裕史・高田伸二・長谷川雅俊

【研究の背景とねらい】

- 2020 年 12 月に施行された新漁業法において、水産資源の保存及び管理を適切に行うため、資源評価を行うことが求められています。そのため、水産研究・教育機構や他都道府県等の関係機関と連携して、資源動向を把握するための必要なデータを収集し、漁獲の現状の把握、資源評価や漁況予測を行っています。

【対象魚種】

- 令和 5 年度に静岡県が対象とする魚種は下表の通りです。

区分	資源評価レベル	対象種
T A C 魚 種	M S Y ベース	マイワシ、マアジ、マサバ、ゴマサバ、スルメイカ、クロマグロ、ミナミマグロ
T A C 拡 大 対 象 魚 種	M S Y ベース	ウルメイワシ、カタクチイワシ、ブリ、トラフグ、キンメダイ
T A C 拡 大 対 象 魚 種 (国 際 資 源)	M S Y ベース 資源水準ベース	カツオ、キハダ、メバチマグロ、ビンナガ、カジキ類、サメ類、ウナギ
資 源 評 価 対 象 魚 種	資源水準ベース 漁獲状況の収集	マダイ、ヒラメ
資 源 評 価 対 象 魚 種	漁獲状況の収集	アカカマス、アカザエビ、イボダイ、カイワリ、カワハギ、コノシロ、シイラ、ヤマトカマス、イセエビ、イトヨリダイ、サワラ、シマアジ、タカベ、タチウオ、ニベ、アサリ、クルマエビ、クロアワビ、メガイアワビ、サザエ、トコブシ、マナマコ

【これまでに得られた成果】

(2022 年度の成果)

- TAC 魚種及び資源評価対象魚種について、漁獲量、CPUE、尾叉長組成、年齢別漁獲尾数、卵稚仔出現数、海況情報等を報告しました。
- 資源評価対象魚種について、漁獲動向を把握するために各種統計資料から過去 20 年間の漁獲量を収集し、水産研究・教育機構に報告しました。
- 各共同実施機関からのデータは、代表機関である水産研究・教育機構が取りまとめ、資源評価報告書あるいは資源状況報告書として機構の Web で公開されます。

【期待される効果】

- データに基づいた資源評価を行うことで適切な資源管理が可能となり、資源の持続的な利用を図ることができます。

【今後の計画】

- データの収集と解析を継続、得られた成果を、漁業者等へ情報発信します。

(作成 2023 年 4 月)